



城東小学校 学校だより

夢

令和6年6月5日

No.5

文責 校長 引地 良典

カエルの鳴き声が聞こえるようになりました。田んぼに水が入って田植えが終わったからです。田んぼは水を貯える力があるので、大雨の時に自然のダムとなって水があふれだすのを予防する力があります。田が減りたまる場所が無くなってしまったことが、すぐに水があふれだす原因にもなっていると聞きます。森林もそうですね。開発が進み木が少なくなると、山が水を蓄える力も減ってしまいます。豊かな自然を守ることが私たちの安全につながっています。6月は梅雨になり雨が多くて気が滅入ることもありますが、植物にも人間にも大切な時期です。



7日 芸術鑑賞会

今年、文化庁の舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）に応募し、見事オーケストラの派遣が決定しました。「アンサンブル神戸」のみなさんが体育館で5日にワークショップを実施、7日に公演を披露してくれます。トップレベルの演奏に触れることで、子どもたちの豊かな感性が育まれることでしょう。10月の音楽会に向けても、よい刺激になればと願っています。音楽は、赤ちゃんから大人、おじいちゃんおばあちゃんまでずっとそばにあるものなので、みんな好きになってほしいと思います。聴くもよし、歌うもよし、演奏するもよし。

ウェルビーイング

校長研修で、子どものウェルビーイングについて学びました。最近よく耳にするウェルビーイングは、「身体的・精神的・社会的によい状態でいられること」、「持続的な幸せ」等に訳されています。子どもがそういうよい状態でいられるには、学校・保護者・子どもそれぞれのよい状態が土台にあり、お互いの関係もよい状態にあることが重要。そのつながりが校区のウェルビーイングに広がっていく。保護者の積極的な学校参加が、横のつながりを強め、校区の中のつながりを広げていくからである。学校参加が少ないと、親同士のつながりが無くなり、子育ての情報を共有することが無くるとともに、みんなで子どもを育てるという意識が減ることが分かっているというお話がありました。よい状態では、校区で子どもを育てる意識が高いそうです。みんなでそういう状態を創っていききたいですね。

ヘルメット

大人もヘルメット着用義務化となって1年以上となります。ヘルメットをかぶっていない人が事故で死亡する割合はかぶっている人の2倍とも3倍とも言われています。子供はヘルメットをかぶっていますか?過去に小学5年生が自転車で女性にぶつかり大けがを負わせるという事故がありました。親の監督責任が問われ、1億円の訴訟となりました。争っていたのは、安全に対して子供に指導していたかどうかでした。結局、判決の決め手の1つとなったのが、子供がヘルメットをかぶっていないことでした。「ヘルメットをかぶっていないということは、親が安全に関する指導ができていない。よって9500万円の支払いを命ずる。」となりました。子供のけがにとっても、相手のけがにとってもヘルメット着用は必須です。学校でも指導していますが、親が見てない所でもかぶるよう注意してください。